



エンジニア / 作家 小野雅裕さん

おの・まさひろ / 1982年大阪府生まれ。2013年よりNASAジェット推進研究所(JPL)技術者となり、作家活動もスタート。主な著書に『宇宙に命はあるのか』『宇宙の話しよう』がある。

子どものころの本とわたし

小さい頃から多くの周りには本があふれていました。記憶にはないのですが、2歳頃には母親に図書館に連れて行ってもらい、ロケットと電車の本を片っ端から持ってきて眺めていたそうです。小学生になると、ぼくは図鑑に夢中になります。サイエンスの図鑑を集めてずらりと本棚に並べていました。なかでもお気に入り、太陽系や銀河などを紹介する「宇宙」とロケットや宇宙探査機を説明する「宇宙開発」の図鑑。ロケットの名前や機能をすべて覚えたり、細かいパーツをじっくり観察して絵を描いたりしていました。ぼくにとって本は、熱中できる世界を広げてくれるものだったのです。



子どものころの小野雅裕さん。当時から、サイエンスの図鑑が大好きだった。(写真提供：小野雅裕)

おもしろいでしょうか？ ぼくの宇宙の話に少しでもワクワクしてくる子がいたらうれしいです。ぼくにも宇宙のおもしろさを伝え続けてくれたたくさんさんの「先輩」たちがいました。みんなにとってぼくもそんな存在でありたいと思っています。ぼくは技術者しながら作家として本も書いています。ぼくの書いた『宇宙に命はあるのか』のイベントの時に、漢字にフリガナを振ってもらって、それを一生懸命読んでくれた子と出会いました！それが本当にうれしくて、それを見て、ぼくもわからないこととはたくさんありますが、小学生の頃から大人向けの本を読んでいたことを思い出しました。

像をふくらませてもいいですし、おもしろくない本に出会ったら「なんでおもしろくないのだろう」と分析するよきな読みかたをしてもいい。本との付き合いかたは自由なのです。一つ付け加えておくと、国語の教科書やテストにのっているお話は、本で読むとおもしろいものが多いです！たとえば塾のテキストにのっていた壺井栄の『二十四の瞳』などは、本で読んでそのおもしろさに気づきました。だから、勉強している途中にちよつと気になるという文章に出会ったら、本を手に入れて読んでみるのもオススメです。おもしろい本が見つけれない子は、尊敬する人がオススメしている本を読んでみるのも手。尊敬する人は家族や友達でもいいですし、有名人やスポーツ選手でもいい。「読む本が人を作る」とはアメリカの哲学者、ラルフ・ウォルドー・エマソンの言葉です。憧れの人の好きな本を読むことで、その人の考え方に近づいていくことができるかもしれません。おもしろい本に出会い、自由に楽しむ。ぼくは宇宙への関心をそんなふうで育んできました。きつとあなたも、本の中で人生をとにもする大切なものと出会うことができるはずです。

もっと楽しくなる！
ノンフィクションの読みかた



宇宙へのおこがれの原点となった天体望遠鏡。(写真提供：小野雅裕)

5歳の時、父が買ってきてくれた天体望遠鏡をのぞき込み、「月はこんなにデコボコしているんだ！」「土星の輪は本にあるんだ！」と自分の目で宇宙の不思議を発見していくことに夢中になりました。一度心に火が灯ると、もっと知りたい。小学生になると図書館に行き、「宇宙」をテーマにした本を読み漁りました。図鑑や科学の本、SFなどに熱中したのを覚えています。もしも本を読むのが得意じゃないと感じているなら、小学生の頃のぼくのように好きな分野の本をどんどん手にとってみるのがいいんじゃないかな。

図書館で出会った本の中に、「アトム博士のまんが」シリーズがありました。漫画家の手塚治虫と学者の大塚明郎が作った『まんがアトム博士の相対性理論』や漫画家の石ノ森章太郎が描いた『まんがアトム博士の宇宙探検』などに没頭しました。ここまで心を奪われたのは、手塚治虫や石ノ森

Q & A コーナー

- 質問 文章を上手にまとめられません。どうしたらいいでしょうか？
小野さんの答え 自分が抱いた一番大きな感情にフォーカスを当ててみるのはいかがでしょうか。「感動した！」など胸の中で大きくふくらんだ感情があればそこを丁寧に書いてみるんです。もし「おもしろくない！」という気持ちがわき起これば、それを軸にして書いてみるのもいいです。あれもこれも書こうとしてしまうと、一番伝えたいことがうまく伝わらないかもしれません。不要な部分は、勇気を出して削ることも大事なポイントです。
質問 将来、宇宙に関わる仕事をしたいです。今から何をしたらいいですか？
小野さんの答え やりたいことが決まっている時点で、もう半分は叶ったようなものです！ 将来については迷ったり、自分が何をしたいのかわからない場合がほとんどですが、すでに「コレ」というものがあるのは素晴らしいことです。宇宙にまつわる仕事をするには、勉強がとても大事になります。特に、算数と理科はがんばりましょう。あとは「宇宙に関わる仕事がしたい！」とアピールし続けて、チャンスを待ってみてください。

小野雅裕さんの本の紹介

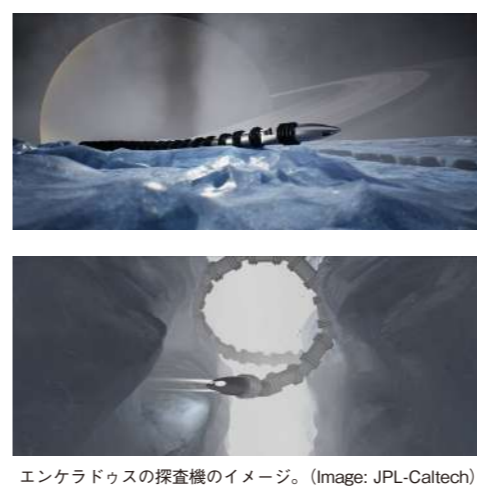


『宇宙に命はあるのか』(SB新書) 小野雅裕 著



『宇宙の話しよう』(SBクリエイティブ) 小野雅裕 著

書くことにチャレンジする君へ
書くことを怖がらず、気軽に始めてみましょう。先生に褒められなくてもいいですし、正解を探する必要もありません。もしSNSをしているのなら、そこに書き込むくらいの気軽さで作文を書いてみるといいと思います。普段、あなたが友達や家族と話していることが他の人にとってはおもしろいはず。『いいものを書こう』ではなく、自分が「楽しいものを書こう」という気持ちを大切にしてみてください。



エンケラドゥスの探査機のイメージ。(Image: JPL-Caltech)

章太郎がストーリーを作ることが抜群にうまかったからでしょう。ストーリーの大事さは、ノンフィクションの作品も同じです。本であっても、論文であっても、たんに事実を並べるだけでは人から興味を持ってもらうことはできません。不思議と、人間にはストーリーが必要なんです。
宇宙が大好きだったぼくが大人になって選んだのは、NASAで星を探査するロボットや探査車を開発する技術者の仕事でした。2021年に火星に着陸したローバーや、氷で覆われたエンケラドゥスという星に対応した探査機を開発しています。エンケラドゥスには、大きく裂けたクレバス(氷河などの割れ目)があります。そこでクレバスの間にも入っていきけるように、ニョロニョロと蛇のような形状の探査機を作ろうとしているのです。